

「あべこべの優先順位」 10月号 ～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

平成元年 11 月、国連総会で全
ての子どもの人権を守るための
「子どもの権利条約」が採択され
ました。その前文には「子どもは、
社会の中の大切な一人として、認
められなければならない」と記載
されています。さらに「大人は子
どもにとって一番よいことは何
か、ということを考えなければな
らない」とあります。子どもは大
人と同じく一人の人間として人権
があります。しかし昨今、親の身
勝手な行為により、子どもの大切
な人権が奪われる事件をよく耳に
します。中には死に至った痛まし
い事件も発生しています。

今年7月の新聞に、母子家庭の
3歳の子どもがマンションの部屋
に1週間置き去りにされ、衰弱死
したという記事が掲載されていま
した。母親はその間、県外へ出か
けていたそうです。母親の行動は、
我が子の存在を無視したものと書い
ても過言ではありません。取り調べ
に対し母親は「育児が大変でリラッ
クスしたかった」と供述しています。
子育てが大変だったとはいえ、自分
の都合で子どもを放置したり、存在
を無視したりすることは決して許さ
れません。あるテレビ番組で出演者
の一人が「子育ては自分の都合より、
子どもの未来を優先する感覚が必要」
と語っていました。また「子どもの
権利条約」に影響を与えたポーラン
ドのコルチャックは「子どもを一人
の人間として尊重しなさい。子ども
を自分の思い通りにさせようとしな
い」と言っています。

将来を担う子どもたちは、一人の人
間として尊重され、守られなければ
なりません。そのためには、大人が
愛情と理解と思いやりを持って守る
必要があります。親は子どもにとって
なくてはならない人として、一緒にい
ると安心できる存在なのです。子ども
たちには「大事にされた」経験をでき
るだけ多くさせたいものです。

